



児童図書研究室だより

令和4年3月25日 発行

Vol. 22

2021年 国内子どもの本に関する賞

賞		タイトル	著者	出版社	出版年	請求記号
日本絵本賞	大賞	該当なし				
	絵本賞	こどもたちはまっている	荒井良二／著	垂紀書房	2020.6	E/アラ/
		このかみなあに？トイレトペーパーのはなし	谷内つねお／さく	福音館書店	2020.11	E/タニ/
		ぼくがふえをふいたら	阿部海太／作	岩波書店	2020.11	E/アヘ/
翻訳絵本賞	虫ガール	ソフィア・スペンサー／文 マーガレット・マクナ马拉／文	岩崎書店	2020.4	E/ケラ/	
堀田謙治文学賞		旅する練習	乗代雄介／著	講談社	2021.1	F64-103/死/21
講談社絵本賞	絵本賞	さくらの谷	富安陽子／文 松成真理子／絵	偕成社	2020.2	E/マツ/
産経児童出版文化賞	大賞	やとのいえ	八尾慶次／作	偕成社	2020.8	E/ヤツ/
	JR賞	プラスチックモンスターをやっつけようきみが地球のためにできること	クリハラタカシ／絵 クレヨンハウス編集部／編	クレヨンハウス	2020.4	C519/タカ/
	美術賞	つかまえた	田島征三／作	偕成社	2020.7	E/タシ/
	産経新聞社賞	バウムクーヘンとヒロシマ ドイツ人捕虜ユーハイムの物語	巢山ひろみ／著 銀杏早苗／絵	くもん出版	2020.6	C913/スヤ/
	フジテレビ賞	サンドイッチクラブ	長江優子／作	岩波書店	2020.6	C913/ナカ/
	ニッポン放送賞	うしとざん	高島那生／作	小学館	2020.12	E/タカ/
	翻訳作品賞	ウサギとぼくのこまった毎日	ジュディス・カー／作・絵 こだまともこ／訳	徳間書店	2020.6	C933/ケル/
		ありがとう、アーモ!	オーグ・モーラ／文・絵 三原泉／訳	鈴木出版	2020.8	E/モラ/
日本児童文学者協会賞		拝啓ハンクスノットデッドさま	石川宏千花／作 西川真以子／装画・挿絵	くもん出版	2020.10	C913/イシ/
		万葉と令和をつなぐアキアカネ	山口進／写真・文	岩崎書店	2020.9	C486/ヤマ/
日本児童文学者協会新人賞		ハジメテヒラク	こまつあやこ／著	講談社	2020.8	C913/コマ/
日本児童文芸家協会賞		雷のあとに	中山聖子／作 岡本よしろう／絵	文研出版	2020.1	C913/ナカ/
		『恋ボテ』シリーズ ※シリーズ第1巻『恋とボテと夏休み』の書誌情報を掲載しています	神戸遥真／著	講談社	2020.4	F28-116/ヨ/20/
児童文芸新人賞		みつきの雪	眞島めいり／作	講談社	2020.1	C913/マシ/
		『保健室経由、かねやま本館。』シリーズ ※シリーズ第1巻の書誌情報を掲載しています	松素めぐり／著 おとないちあき／装画・挿画	講談社	2020.6	C913/マツ/
児童文芸幼年文学賞		今年度は選考なし				
児童文芸ノンフィクション文学賞		災害にあったペットを救え 獣医師チームVMAT	高橋うらら／著	小峰書店	2019.3	C645/タカ/
小学館児童出版文化賞		うしとざん	高島那生／作	小学館	2020.12	E/タカ/
福島正実記念SF童話賞	大賞	今年度は選考なし				
	佳作	今年度は選考なし				
ひろすけ童話賞		きみひろくん	いとうみく／作 中田いくみ／絵	くもん出版	2019.11	C913/イト/
小川未明文学賞	大賞	屋根に上る	かみやとしこ／作 かわいちひろ／絵	学研プラス	2021.12	E/カワ/
野間児童文芸賞		わたし、パリにいったの	たかどのほうこ／著	のら書店	2021.3	C913/タカ/
けんぶち絵本の里大賞	大賞	ねぐせのしくみ	ヨシタケシンスケ／作	ブロンズ新社	2020.7	E/ヨシ/
	ひばからず賞	パンどろぼう	柴田ケイコ／作	KADOKAWA	2020.4	E/シハ/
		私の名前は宗谷本線	荒尾美知／文	あすなる書房	2020.12	E/ホリ/
	アルパカ賞	悲しみのゴリラ	ジャッキー・アズーア・クレイマー／文 シンディ・ダービー／絵	クレヨンハウス	2020.12	E/タヘ/
日産童話と絵本のグランプリ	童話の部大賞	ながみちくんがわからない	数井美治／作 奥野哉子／絵	BL出版	2021.12	E/オウ/
	絵本の部大賞	マロングラッセ	だるま森／作	BL出版	2021.12	E/タル/

令和3年度 第5回ボランティアスキルアップ講座

令和4年2月9日 岡山県立図書館を会場に、令和3年度第5回
県立図書館ボランティアスキルアップ講座（児童サービス支援コース）
を開催しました。

「子どもとおはなしをたのしみましょう

— 子どもはどのようにおはなしを楽しむのか —

講師 芦田悦子 氏
(兵庫県子どもの図書館研究会代表)



講師の芦田氏は、ニュージャージー州ノースバーゲン公共図書館、兵庫県太子町立図書館勤務後、甲南女子大学などで教鞭を取り、現在は兵庫県子どもの図書館研究会代表として、幼稚園でのおはなしの時間にも携わっておられます。今回は、おはなしを聞いている時、子どもたちはそれをどのように受け止め楽しんでいるのか、「凍渡」、「山のぼり」、「なぞなぞのすきな女の子」のストーリーテリングの実演も交えてご講演いただきました。ここではその一部をご紹介します。

おはなしを聞いている時の楽しみ方には、言葉の持っている音のリズムを楽しむことと、言葉からイメージをふくらませて登場人物の気持ちや感情を想像し、共有することの二通りがあります。このうち後者の楽しみ方は読書と同じものであり、読んでもらえれば、子どもたちは自分で読めるレベルよりも難しい物語を理解し、楽しむことができます。ストーリーテリングといえば「凍渡」のような昔話が思い浮かぶ方も多いのではないのでしょうか。昔話は長く語り継がれてきたものであり、おはなしの世界に人々を引き込む魅力があります。また、昔の暮らしや言葉に触れることができるという点でも味わい深いものです。ですが、今回実演いただいた創作童話の「山のぼり」、「なぞなぞのすきな女の子」は、どちらも子どもたちがイメージしやすい言葉や、なじみがあるような出来事が描かれているため、実際のおはなしの時間の中でも、子どもたちは最初から物語を楽しむことができているそうです。このような創作童話を語ることは、その後本を手取るきっかけ作りにもなり、子どもが読書を楽しむチャンスを広げることにつながります。これらの実演を通して、ストーリーテリングの魅力や可能性を改めて感じることができました。

次に、どのようなおはなしを語るか選ぶ際に気を付けたいことは、まず具体的な言葉で書かれているかどうかです。耳から聞いてははっきりとイメージできるかどうか、語り手も言葉に対する感覚を磨く必要があります。また、大人は感情的、情緒的な表現に心揺さぶられますが、それらは人生経験の少ない子どもにとっては難しい場合が多く、注意が必要とのことです。そして、主人公に共感することができ、かつハッピーエンドであるということです。現実を生きていれば、もちろんいいことばかりとは限りません。だからこそ、おはなしの中ではハッピーエンドで終わるものを選んであげたいものです。

おはなしの楽しさとは、子どもが未知の世界を主人公といっしょに体験できることにあります。そしておはなしの中で様々な人物に出会い、新たな体験をすることは、認識の幅や人を見る目を広げることにつながります。また、耳からおはなしを聞くということは、言葉とイメージを結び付ける体験を数多くすることでもあり、これは日常で人の話を聞く時にも通じるものがあります。さらに、起承転結のあるおはなしに出会うことで、日常の出来事の全てにも原因と結果があることが感じられます。このことから、子どもが読む本にもまた、その場限りの面白さではなく、きちんとした構成であることが求められると言えます。

このように、おはなしを語り聞かせることは子どもたちに様々な影響を与えるものであると言えますが、それは教訓として教わるものではなく、主人公と一緒におはなしの世界を楽しむうちに子どもたちの中に蓄積されていくものであり、すぐ

書名	著者名	出版社
「凍渡」『越後の昔話 あったとき』より	山田 貢／著	文化出版局
「山のぼり」『いやいやえん』より	中川 李枝子／さく 大村 百合子／え	福音館書店
『なぞなぞのすきな女の子』	松岡 享子／さく 大社 玲子／え	学研
『ストーリーテリング その心と技』	エリン・グリーン／著 芦田 悦子他／訳	こぐま社

に花開くとは限りません。その上で、おはなしを聞いた子どもが大人になった時、自らの子どもに心に残った絵本を手渡すことができるよう、私たち自身も多くのおはなしに触れて選ぶ力を付け、次の世代に受け継いでいきたいと感じる講演会となりました。

展示「トーベ・ヤンソン没後20年」

2021年6月22日～7月13日まで、児童図書研究室展示1のスペースで、「トーベ・ヤンソン没後20年」と題して展示を行いました。世界中で愛される「ムーミン」の生みの親として知られているトーベ・ヤンソンですが、児童書だけでなく、風刺画からコミック、絵画、大人向けの小説まで、様々な分野でその才能を発揮しました。

展示では、トーベ・ヤンソンの略年譜で生涯を振り返るとともに、著作の絵本や児童図書、研究書を集めました。展示の様子と関連資料をご紹介します。

1 トーベ・ヤンソン

1914年8月9日にフィンランドのヘルシンキで生まれました。父はフィンランド人彫刻家ビクトル・ヤンソン、母はスウェーデン人デッサン教師でありイラストレーターであり、また風刺画家でもあったシグネ・ハンマルステン・ヤンソンという芸術一家でした。29年からは反戦、反ファシズムを掲げる政治風刺雑誌「ガルム」で挿絵を担当します。43年の同雑誌において、ムーミンの元型となる「スノーク」が登場。45年にはムーミン物語1作目となる『小さなトロールと大きな洪水』が刊行されます。シリーズ2作目『ムーミン谷の彗星』に続いて、49年には3作目となる『たのしいムーミン一家』が出版。その後、各国で翻訳されるとともに、絵本、コミック、アニメにもなり、世界中で大ヒットしました。また、66年には、子どもの本の最高の国際賞とも言われる国際アンデルセン大賞を受賞しています。

2 代表的な作品

『ムーミン童話全集 別巻 小さなトロールと大きな洪水』 (トーベ・ヤンソン/作・絵 1992年 講談社)

ムーミン物語1作目となる本作ですが、第二次世界大戦直後に出版され、その後長い間絶版になっていました。また、作者の「あまり出来が良くない」「いずれ書き直すつもりである」などの思いもあったそうで、日本に紹介されたのは『たのしいムーミン一家』よりも後でした。ムーミンパパが行方不明になり、ムーミントロールはムーミンママと2人で、安心して住める場所を求めてさまよいます。暗くて寒い森を取り巻くどこか不安な雰囲気は、戦争が作者に与えた影響が反映されているとも言われています。



『ムーミン谷に彗星がふる日 ムーミンの冒険日記』(トーベ・ヤンソン/作 ラルス・ヤンソン/作 1992年 福武書店)

小説の執筆と並行して、1954年からはイギリスの新聞「イヴニング・ニュース」で、ムーミンのコミック版の連載が始まりました。当初はトーベが作画も行っていましたが、数年後には、弟であるラルス・ヤンソンが作画を担当するようになります。本作はシリーズ第2作目『ムーミン谷の彗星』を元にしてはいますが、新聞社からの「次の日に続く、続き物のコミックスとして盛り上がりを持たせて終わらせてほしい」という要望を受けて、若干異なるストーリーで描かれています。その他、コミックオリジナルの物語も出版されており、多くの人に親しまれています。

『彫刻家の娘』(トーベ・ヤンソン/作 富原 真弓/訳 1991年 講談社)

彫刻家の娘として生まれた、好奇心旺盛ですどい洞察力を持った短い髪の少女、トーベの物語。本作はトーベ・ヤンソン唯一の自伝的小説とされています。日々の出来事を起点として、現実と空想が入り交じる描写からは、トーベの感受性の高さが伺えます。また、「冒険」を象徴する存在であった父と、「信頼」の象徴であった母は、それぞれムーミンパパとムーミンママの姿にも重なります。北欧の豊かな自然や島での暮らしなど、ムーミン物語を始めとしたトーベの作品の原点を感じられる一冊です。

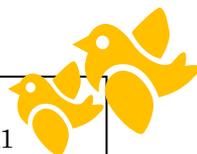
<参考文献>

ポエル・ウェスティン/著 畑中 麻紀/共訳『トーベ・ヤンソン 仕事、愛、ムーミン』講談社 2014.11

富原 真弓/著 芸術新潮編集部/編『ムーミンを生んだ芸術家トーヴェ・ヤンソン』新潮社 2014.4

トゥーラ・カルヤライネン/著 セルボ貴子/訳『ムーミンの生みの親、トーベ・ヤンソン』河出書房新社 2014.9

富原 真弓/著『トーヴェ・ヤンソンとガルムの世界』青土社 2009.5



児童図書研究室展示のご紹介

2021年11月11日～2022年1月20日まで、児童図書研究室展示1のスペースで、「あなたもわたしも読んだ絵本」の展示を行いました。岡山県立図書館読み聞かせボランティアのみなさんにご協力いただき、アンケートで寄せられたあたたかいコメントとともに、思い出の絵本、読み聞かせにおすすめの絵本を展示しました。

また、展示終了後から、研究室内に「読み聞かせ定番絵本」のコーナーを常設しています。おはなし会等で使用する絵本の選定に、また、家庭での読み聞かせの参考に、研究用図書として館内でいつでもご覧いただけます。



2022年1月13日～2022年3月15日まで、同スペースで「おもしろ読書事典」の展示を行いました。『おもしろ読書事典』は、岡山県教育委員会が県内の小・中学生から募集したおすすめの本やそのコメントをまとめた読書ガイドです。令和2年に県内の中学生を対象に「好きな本総選挙」が実施され、中学生向けの『もっとおもしろ読書事典』が発行されました。展示ではその中で取り上げられた本やコメントの一部を展示しています。



児童図書研究室では、他にも昨年度に出版され話題になった児童書を常設展示しているほか、児童文学・絵本作家や児童書についての展示などを定期的に行っています。全点購入している児童書と合わせて、ぜひご覧ください。



4月23日は
「子ども読書の日」

ヨムヨム春のおはなしまつり

「らんらんらん♪春ですよ」をテーマに、読み聞かせと工作を予定しています。ぜひご参加ください。(入場無料)

- ◆令和4年4月23日(土) 14:00～15:30 (受付開始 13:30～)
- ◆岡山県立図書館2階多目的ホール ◆40名(保護者同伴可) ◆事前予約制

発行日 令和4年3月25日発行

発行 岡山県立図書館 サービス第一課 児童資料班

〒700-0823 岡山県岡山市北区丸の内2-6-30 Tel : 086-224-1286・086-224-1288 Fax : 086-224-1208